

## 上田市塩田地区における 小学生の校外生活をめぐる現状と動向

— 1983年、1991年の調査結果をもとに（その2）—

### The Trend of Children's Life After School, in Shioda Area, Ueda City. (Part 2)

桜 田 百合子

Yuriko Sakurada

#### 〔目次〕

- I. はじめに — 調査の経過と課題
- II. 塩田地区の子どもをめぐる概況
- III. 調査結果の分析
  - 1. 調査の概要と分析の枠組み
  - 2. 調査対象者の基本的属性
  - 3. 日頃の遊びをめぐる実態・意識  
(以上第14巻第3号掲載)
- (以下本号)
- 4. 地区子ども会の夏休み行事・活動への参加状況
- 5. 通塾（スポーツ教室を含む）状況
- 6. 家族・近隣者との触れ合い状況と日曜日の過ごし方
- 7. 校外生活における注意・禁止事項の認知状況
- IV. おわりに — 若干のまとめ

#### 4. 地区子ども会の夏休み行事・活動への 参加状況

塩田の小学生にとっても夏休みの長期休暇は、校外生活の最盛期である。活発化する地区子ども会の行事・活動への参加状況、またそれがどのように行われ、子どもたちはどう受け止めているのであろうか。

質問の第一として「あなたがこの夏休みに参加した子ども会の行事をぜんぶかいてください」と設問し、回答状況を小学校・学年別にまとめたものが表15である。

みられるように、回答記入者の比率は前回が88.9%、今回は84.0%で約5ポイント低下、無記入者が増えている。また記入した回答の合計数及びその一人当たり数をみても前回が2.94であるのに対して今回は2.37、小学校・学年別にも低い数字が並んでいる。つまり、この間における地区子ども会への参加状況は概して低調、下りカーブで推移していることが読み取れるのである。

参加した行事の種類別にみてゆくと、表には83年度の高位順に掲示してある。「花火大会」「きもだめし」は両回とも5割以上で過半数のものが挙げており、夏の子ども会行事の中心種目である。ただしこの間に「きもだめし」は上向きで推移しているが「花火大会」は大きく下降している。最近の花火は危険を伴うとして先述のように禁止に近い取り決めがされているからであろう。

「すいか割り」「ラジオ体操」「盆踊り」については、そのいずれもが夏休みの思い出、風物詩として記憶に鮮やかである。本調査結果からは「すいか割り」はこの間下降しているが、両回とも2割台で挙げられている。しかし「ラジオ体操」と「盆踊り」は、前は各2割前後であったものが、今回は皆無である。「ラジオ体操」は今日でも塩田の各地で行われており、「盆踊り」の方は大人の自治会主催の行事であるが、子ども達も見物、あるいは参加しているのであるが。

「スポーツ・球技大会」は前回に比べて大きく割り込んでいく。この種の催しは計画・準備・実施に手間ひまがかかり、大人の役員間では最近とくに敬遠されているようである。

表15 地区子ども会の夏休み行事——参加した行事名

自由記入、複数回答、比率：％、( )内実数

		総 数		中 塩 田				東 塩 田				西 塩 田				別 所			
				3 年		6 年		3 年		6 年		3 年		6 年		3 年		6 年	
調 査 年 度		'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91
サ ン プ ル 数		(406)	(419)	(75)	(90)	(65)	(117)	(60)	(43)	(60)	(58)	(53)	(30)	(45)	(40)	(28)	(14)	(20)	(25)
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答記入者(A)		(361)	(352)	(63)	(72)	(58)	(103)	(52)	(27)	(54)	(51)	(49)	(28)	(40)	(36)	(25)	(10)	(20)	(23)
		88.9	84.0	84.0	80.6	89.2	88.0	86.7	62.8	90.0	87.9	92.4	93.3	88.9	90.0	89.3	71.4	100.0	92.0
参 加 行 事 の 種 類	花 火 大 会	67.7	50.1	78.7	52.2	55.4	48.7	65.0	34.9	50.0	48.3	79.2	56.7	82.2	57.1	60.7	57.1	65.0	56.0
	胆 試 し	54.5	57.8	65.3	65.6	44.6	57.3	50.0	46.5	35.0	65.5	60.4	63.3	77.8	61.9	42.9	28.6	70.0	36.0
	西 瓜 割 り	28.3	23.2	10.7	17.8	29.2	18.2	38.3	37.2	68.3	51.7	30.2	6.7	17.8	19.0	—	7.1	—	8.0
	ラ ジ オ 体 操	24.6	—	13.3	—	33.8	—	31.7	—	18.5	—	—	—	44.4	—	42.9	—	30.0	—
	盆 踊 り	18.2	—	4.0	—	21.5	—	18.3	—	56.7	—	1.9	—	22.2	—	3.0	—	—	—
	ス ポ ー ツ 大 会	13.5	3.8	2.7	3.3	13.8	7.7	6.7	7.0	8.3	—	32.1	3.3	40.0	—	—	—	—	—
	お 楽 し み 会	10.6	24.1	2.7	24.4	1.5	38.5	—	—	—	20.7	17.0	10.0	35.5	7.1	14.3	28.6	45.0	48.0
	美 化 清 掃	5.9	14.6	1.3	1.1	1.5	—	5.0	9.3	3.3	20.7	—	66.7	—	28.6	—	28.6	—	4.0
	プ ー ル	3.2	4.8	5.3	5.6	1.5	7.7	6.7	—	5.0	3.4	—	—	2.2	4.8	—	—	—	8.0
	キ ャ ン プ	3.0	5.7	1.3	—	—	—	5.0	2.3	—	—	9.4	33.3	4.4	31.0	3.0	—	—	—
	遠 足	4.7	0.5	4.0	2.2	6.1	—	3.3	—	—	—	—	—	—	—	28.6	—	10.0	—
	そ の 他	22.9	13.4	5.3	—	26.2	17.1	23.3	32.6	56.7	24.1	20.7	6.7	24.4	11.9	—	—	10.0	16.0
合 計 回 答 数 (B)		1061	836	146	159	154	229	155	73	187	136	133	77	164	93	55	21	47	44
一人当たり回答数B/A		2.94	2.37	2.31	2.21	2.65	2.22	2.98	2.70	3.46	2.67	2.71	2.75	4.10	2.58	2.20	2.10	2.35	1.91

榎田百合子 上田市塩田地区における小学生の校外生活をめぐる現状と動向  
— 1983年、1991年の調査結果をもとに (その2) —

表16 地区子ども会の夏休み行事——「自分たちでやろう」ときめたものがありますか？

比率：％、( )内実数

	学 年 ・ 性 別				小 学 校 区 ・ 学 塩 年 別																					
	3 年				中 塩 田				東 塩 田				西 塩 田				年 別									
	男 子		女 子		男 子		女 子		男 子		女 子		男 子		女 子		年 別									
	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91								
調査年度	'83	'91																								
サンプル数	(406)	(419)	(113)	(91)	(103)	(86)	(105)	(123)	(85)	(119)	(75)	(90)	(65)	(117)	(60)	(43)	(60)	(58)	(53)	(30)	(45)	(40)	(28)	(14)	(20)	(25)
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
あ	57.1	43.4	46.9	20.9	46.6	38.4	66.7	50.4	71.8	57.1	38.7	12.2	58.5	41.9	50.0	20.9	63.3	46.6	58.5	93.3	86.7	85.7	39.3	28.6	80.0	72.0
な	36.5	53.2	42.5	75.8	45.6	58.1	29.5	48.8	25.9	37.0	60.0	83.3	33.8	53.8	41.7	79.1	35.0	51.7	32.1	3.3	13.3	11.9	28.6	64.3	20.0	24.0
回答なし	6.4	3.3	10.6	3.3	7.8	3.5	3.8	0.8	2.4	5.9	1.3	4.4	7.7	4.3	8.3	-	1.7	1.7	9.4	3.3	-	2.4	32.1	7.1	-	4.0

「お楽しみ会」とは、室内ではゲームや図画、工作等を組み合わせ、さらに屋外での西瓜割りや時に夜間の肝だめし等も盛り込んで、一日を小刻みに盛沢山に楽しむという内容のものである。最近、塩田各地の子ども会でとりあげられるようになり今回、大幅に増えている。「美化・清掃」も最近の環境問題への関心から子ども会で採り上げられており、今回、やはり大きく増えている。内容はゴミ、あきかん拾い、草取り、神社やバス停など特定の場所の清掃等である。

「キャンプ」「プール・水泳大会」を記入したのは両回とも少数である。それでも今回、「キャンプ」が倍増しており、西塩田小学校区の子ども会で計画・実施されたようである。後者は今回「水泳大会」という記入はなく「プールにゆく」とある。そしてこれはラジオ体操同様、日常化しており、子ども会の行事として受け止められず、極く少数者の記入となったのであろう。また、「遠足」は今回中塩田小学校区の3年生2人のみ、子ども会の行事というよりも子どもの脳裏に鮮やかに刻み込まれた体験、楽しかった思い出の行事として書き留められたものと理解したい。

つぎに、表16に移り、前表でとりあげた地区子ども会の夏休み行事に参加したものの中に「自分たちでやろう、ときめたものがありましたか」との質問に対する回答状況についてみてゆこう。

全体的に「ある」と答えたものが、前回は57.1%で過半数を越えたが、今回は43.4%で過半数を割り込み、前回は14ポイントも落ち込んでいる。つまり夏休みの行事を子ども達で自発的に決めるということがこの間、かなり大きく後退して経過しているのである。

学年別には年長の6年生が、性別には男子よりも女子が、小学校区別では西塩田の子ども達が比較的「ある」と答えている。

ところで、子どもたちが「自分たちでやろう」ときめたものはどんな行事か。自由記入してもらい、それを表17に掲示しておいた。

まず、回答状況からみてみると、記入した種類の数、合計回答数が444から292と大幅に減っている。一人当たりの回答数も、前回は1.91であるのに比べて今回は1.60、つまり子どもたちが自発的に決めて参加したとする行事がこの間に減少の一

表17 「ある」の回答者 — その行事名

自由記入、複数回答、比率：％、（ ）内実数

	総 数		3 年				6 年			
			男 子		女 子		男 子		女 子	
調 査 年 度	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91
サ ン プ ル 数	(232)	(182)	( 53 )	( 19 )	( 48 )	( 33 )	( 62 )	( 70 )	( 61 )	( 68 )
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ス イ カ 割 り	21.6	19.2	17.0	5.3	14.6	9.1	28.6	24.2	22.9	23.5
花 火 大 会	54.7	35.7	41.5	15.8	39.6	36.4	55.7	33.9	57.4	42.6
き も だ め し	54.7	52.2	43.4	47.4	50.0	48.5	55.7	48.4	67.2	58.8
お 楽 し み 会	10.3	15.4	3.8	5.3	4.2	12.1	12.8	11.3	18.0	23.5
美 化 清 掃	7.8	20.3	26.4	26.3	14.6	45.5	21.4	17.7	11.5	8.8
キ ャ ン プ	2.2	6.0	3.8	15.8	2.1	15.2	—	1.6	3.3	2.9
球 技 大 会	3.4	4.9	18.9	15.8	4.2	—	20.0	9.7	8.2	—
ラ ジ オ 体 操	11.6	—	1.8	—	8.4	—	12.8	—	21.3	—
そ の 他	20.3	6.6	28.3	5.3	14.6	9.1	21.4	9.7	16.4	2.9
合 計 回 答 数	444	292	98	26	73	58	160	97	138	129
一 人 当 り 回 答 数	1.91	1.60	1.85	1.37	1.52	1.76	2.29	1.56	2.26	1.90

表18 子ども会のあり方 — 良いと思われること（複数回答）

比率：％、（ ）内実数

	総 数		3 年				6 年			
			男 子		女 子		男 子		女 子	
調 査 年 度	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91
サ ン プ ル 総 数	(406)	(419)	(113)	( 91 )	(103)	( 86 )	(105)	(123)	( 85 )	(119)
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
大人のの人に色々決めてもら い、お手伝いしてもらう	13.1	16.9	16.8	25.3	17.5	19.8	9.5	16.3	7.1	9.2
自分たちで色々決めてやっ ていく	76.8	65.4	73.5	68.1	68.9	60.5	81.9	65.0	84.7	67.2
同じ学年の人で色々な事を する	26.1	17.2	36.3	24.2	28.2	15.1	17.1	17.1	21.2	13.4
年上や年下の人が一緒にな って色々な事をする	74.9	65.6	67.3	64.8	75.7	67.4	80.0	59.3	77.6	71.4
中学生の人々にも入っても らう	20.7	11.9	20.3	11.0	29.1	12.8	14.3	12.2	18.8	11.8

途を辿っているのである。

行事の種類別にみてゆくと、「きもだめし」は両回とも記入者の過半数が挙げており、根強い人気を保っている。次いで「花火大会」が高率であるが、前回に比べれば大幅に低下している。「スイカ割り」は微減、「球技大会」「ラジオ体操」は消え入るばかりである。反対に「美化清掃」「お楽しみ会」はかなり増えており、「キャンプ」も少数ながら増えている。

これまで見てきた子ども会行事の参加状況からも、子どもの自発的な参加については、かなりの程度衰弱傾向をみせているのであるが、それはどのような理由からか。また、子ども達自身が考える子ども会活動のあり方はどのようなものなのか。

そこでまず、子ども会の運営や構成メンバーについて選択肢を用意し、質問をしてみた。

表18では「子ども会について、あなたが良いと思うものに○印をつけてください」として、複数回答の結果を小学校・学年別にまとめている。

まず、子ども会の行事決定と運営・実施において子ども主導、それとも大人主導を良しと考えて

いるのか、に関する選択肢についてみてゆこう。

「大人の人にきめてもらい手伝ってもらおう」とするものは両回とも1割台の少数派である。しかし前回に比べて今回は4ポイント増加しており、6年生でもこれを良しとするものが少数認められる。一方、「自分たちできめてやっていく」とするものは6～7割台の多数派で、子ども達が主体的に行事決定をし、運営の上でも主導的に参加して行くことに大多数が賛成していると見てよいだろう。しかしまた、この間に12ポイントも低下しておりこうした傾向は注目を要するだろう。

また、子ども会の行事活動を集団的に行う際にその仲間、適当と思われるメンバーはどのような組み合わせを良しと考えているのであろうか。

「同じ学年のひとで」とするものが前回の2割台から今回は1割台へと減っており、性別には男子がより多数である。「年上や年下の人と一緒に」つまり異年齢集団で、とするものは7割台から6割台へ落ち込んでいるが、先の同年齢集団を良しとするものに比べれば圧倒的な多数派である。さらに「中学生の人にも入ってもらおう」と答えたものがやはり2割から1割に半減している。全体的に子ど

表19 希望する子ども会の行事・活動（複数回答）

比率：％、（ ）内実数

	総 数		3 年				6 年			
			男 子		女 子		男 子		女 子	
調 査 年 度	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91
サ ン プ ル 数	(406)	(419)	(113)	(91)	(103)	(86)	(105)	(123)	(85)	(119)
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
いろいろなスポーツをする	71.9	65.4	84.9	60.4	48.5	45.3	76.2	81.3	77.6	67.2
ゲームや遊びをする	66.3	69.7	75.2	79.1	72.8	66.3	53.3	71.5	62.3	63.0
ハイキングや山登り	68.2	62.8	72.6	67.0	66.0	65.1	60.9	62.6	74.1	58.0
キャンプをする	74.1	74.7	68.1	76.9	73.8	75.6	76.2	73.2	80.0	73.9
図画や工作などする	57.4	50.8	69.0	60.4	60.2	55.8	52.4	51.2	44.7	39.5
歌や演奏や劇をする	37.2	23.2	25.7	16.5	55.3	45.3	14.3	4.9	58.8	31.1
為になる所を見学する	47.3	31.0	57.5	30.8	53.4	37.2	43.8	30.9	30.6	26.9
川や池などの自然観察	43.1	33.2	44.2	36.3	49.5	39.5	38.1	33.3	40.0	26.1
空缶拾いや草取りなど	47.8	41.5	50.4	46.2	57.3	72.1	40.9	27.6	41.2	30.3
自治会や塩田のことを調べる	29.8	17.7	30.1	27.5	34.9	25.6	30.5	11.4	22.3	10.9

も会活動における子ども達の主体的な参加意志や幅広い異年齢集団への志向度は、この間にかなり減退していると見てよいだろう。

次に、子ども達自身はどのような行事活動を希望しているのだろうか。表19でみられるような合計10種類の選択肢を用意して複数回答してもらった。

「いろいろなスポーツをする」は6～7割台が回答、人気の高い種目だが、この間に7ポイント減、3年男子で激減、6年女子も大幅減だが男子は増えている。

「いろいろなゲームや遊びをする」は6割後半で推移、この間に4ポイント増え、唯一の増加種目である。6年男子で激増、女子は横這い、3年女子は減っている。

「ハイキングや山登り」は今回も6割台で希望の多い種目だが、この間に5ポイント減、特に6年女子が大幅に減退、3年男子も減っている。

「キャンプをする」は7割台の横這いで推移し子ども達が最も希望している行事である。この間、特に3年男子で増え、逆に6年女子では減っている。

「図画や工作」等の創作活動は気軽に個人で関われるためか5割台で推移、この間に6ポイント減るが比較的高い希望種目ではある。

「歌や楽器演奏や演劇」活動は手間ヒマがかかり、緊密な対人関係を要するためか3割台から2割台へ、14ポイントも落ち込んでいる。とくに6年女子で激減している。

「どこか為になる所を見学する」は4割台から3割台へ、この間に16ポイントも減っている。6年女子を除いて3年男・女、6年男子で大きく落ち込んでいる。

「近くの川・池など自然観察をする」も4割台から3割台へ、この間に10ポイントの減である。6年男子を除いて3年男・女、6年女子で大きく減っている。

「自治会や塩田の事を調べる」も2割台から1割台へ、この間に12ポイントの減で最も希望の少ない種目である。3年男子を除いて6年男・女、3年女子で大きく減っている。

「あきかん拾い、草取りなど喜ばれることをする」は4割台で推移、この間に6ポイント減とな

っている。3年女子で唯一増加、その他ではとくに6年男・女で大きく減っている。

このように子ども達が所属する地区の子ども会で「やってみたい」と思う活動・行事はこの間、全体的に減退傾向を辿り、子ども会活動への期待、主体的な参加意欲そのものが欠落してゆく道程を辿っているように思われる。

本調査で掲げた選択肢は、先にみておいた子ども会行事の種類を中心に、若干調査者の側で用意した項目も含めて設問したのであるが、以下ではその性格・類型別に回答状況を要約・整理してみよう。

まず今回も過半数が「やってみたい」と回答した項目は、キャンプ、ゲーム、スポーツ、ハイキングであり、いずれもポピュラーな集団参加の行事であるが、特にキャンプは日常性を越えた野外体験の機会を求めているものであろう。

図画・工作、歌・演奏の類は、それらの技能や情操を身につけ、認め合う機会を伝統的に学校や地域の子どもの会が担ってきたが、今日では各種おけいこごとの塾が代替し引き受けている。それでも図画・工作は子ども会でもやってみたいと約半数が回答しており、比較的手軽な創作活動で、作品の発表の場として子ども会を位置づけているのであろう。一方の音楽関係の合唱・楽器演奏は、その準備や効果の点で地区子ども会レベルでは難しく、躊躇せざるをえないのであろう。

社会見学、自然観察、塩田調査など、地域社会にかんする体験学習関連の項目については全般に低く、しかもこの間に大きく後退している。次代の地域社会の担い手としての位置づけを欠いたままの子育て・地域社会の教育力の衰弱化がこの間にも待った無しに進行していることを示しているように思われる。

空かん拾いなどの環境美化・清掃活動に半数近い比較的多数が回答しているのは、前回の時点で塩田地区住民憲章が制定され、景観保持・環境美化のキャンペーンが高まり、子ども会行事でも地区の清掃等が奨励され、参加したことによる。今回も若干減るが比較的多いのは、環境問題への関心の高まりの反映であろうか。

### 5. 放課後の通塾（含スポーツ教室）状態

まず、放課後の小学生が普段通っているスポーツ教室、おけいこごと、学習塾などの種別名称を示して、何らかの塾に通っているかどうかについて設問した。表20はこの通塾状態に関して、学年・性別及び小学校区・学年別に表示してある。全体的に「通塾している」と答えた者が83年度は回答者総数の75.9%であるが、91年度には81.4%で、この間に5.5ポイントも増えている。

学年・性別には、およそ3年よりも6年生が、男子よりも女子のほうが通塾率が高い。またこの間に3年男子は例外的に5ポイント近く減っているが、3年女子は5.7の増、6年男子では15.6ポイントも増加している。6年女子は微増だが、全体の9割もが何らかの塾に通っており、通塾率は最高である。

小学校区・学年別にみてゆくと、中塩田ではこの間に3年生の通塾率が10ポイント近く低下、6年生の方は反対に増加している。東塩田では3・6年とも微増、西塩田は両学年で大幅に増加。別所では3年増、6年減ではあるが西塩田同様の高い数字がみられる。

以上のような通塾率からみた「塾通い」の増加動向は、通塾先の種類別回答合計数、及びその一人当たり数からもみてとれる。同表からも、合計数で143増加、一人当たりでは83年度1.66であったものが91年には1.92となり、この間における大幅増がみてとれる。

学年・性別には、とくに6年女子では一人平均2.24（91年度）という数字がみられ、およそ2種類以上の塾通いが“当たり前”になっていることを示唆している。また小学校・学年別では、今回の平均通塾数の高いものは西塩田と中塩田の6年生である。

通塾か所数の別にみてゆくと、全体的に、前回「1か所」は過半数の5割台であったものが今回は4割に減り、「2か所」が3割台で微増。「3か所」は約倍増、「4か所」は4倍増。「5か所」は各5人で同数だが、今回「6か所」2人（6年女子）が現れ、通塾か所数の最高記録を更新した。

次に表21で通塾先の種類別に動向をみてゆこう。

表の種別表示順は、83年度の高位順に1位習字、2位ピアノ、3位ソロバン・・・と9位まで表示

してある。また、その他の内訳はオルガン・エレクトーン、琴、踊り・バレエ、柔道、バスケット、テニス、理科等で、いずれも少数である。

ところで、この順位が91年度にはどのように変わったか。みられるように1位のピアノと2位の習字が入れ替わり、3位には前回8位の英語（英会話を含む）が入り、急上昇している。一方、前回3位のソロバンは今回7位、同じく剣道は9位に下降移動している。

種類別に、学年・性別の傾向をも加えてみてゆこう。

「習字」はこの間に12ポイントの減で、通塾者の2人に1人から3人中の1人という数字に変わった。とくに3・6年の男子において低下し、“習字離れ”が目立つ。

「ピアノ」は前回と比べると微増し習字を追い越した。3年女子が大きく伸びている。

「ソロバン」は14ポイントの減で今回最も大きく後退、各学年男女とも半減している。

「英語」は反対に今回、25ポイントと驚異的な伸びをみせた。とくに6年男・女で、およそ2人中の1人が英語あるいは英会話の塾に通っているという数字である。

「算数」「国語」も各7ポイント伸ばした。算数は6年生中心の通塾、国語はまだ少数である。

「水泳」は4ポイント増、とくに3年男子で大きく伸び、倍増している。

「剣道」は3ポイント減、特に6年男子で半減している。女子は少数だが増えている。

「野球」は8ポイント増で水泳と肩を並べる数字である。各地の野球好きの男子がリトルリーグ等でチームを組み、定期的に練習しているからであろう。

学年・性別には、3年男子は習字を大きく減らし、反対に野球、とくに水泳が大きく増えている。3年女子は、算盤、習字を減らし、ピアノと算数・国語・英語の類を増やしている。6年男子は伝統的な算盤、習字、剣道を軒並みに減らし、英語、野球で大幅に膨らみ、算数、国語も伸ばしている。6年女子は、英語への急傾斜の反面で算盤離れが目立ち、算数も伸びている。また「その他」で高い数字がみられるが、その内訳は琴、バレエボールなど多彩である。

表20 通塾状況——学年・性別、小学校区・学年別

実数、( )内比率：％

		総 数		3 年 生				6 年 生				中 塩 田				東 塩 田				西 塩 田				別 所			
				男 子		女 子		男 子		女 子		3 年		6 年		3 年		6 年		3 年		6 年		3 年		6 年	
調 査 年 度		'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91		
サンプル数 (A)		406	419	113	91	103	86	105	123	85	119	75	90	65	117	60	43	60	58	53	30	45	40	28	14	20	25
通塾者人数 (B)		308 (100.0)	341 (100.0)	80 (100)	60 (100)	84 (100)	75 (100)	69 (100)	100 (100)	75 (100)	106 (100)	58 (100)	61 (100)	50 (100)	101 (100)	48 (100)	35 (100)	46 (100)	46 (100)	40 (100)	27 (100)	29 (100)	36 (100)	18 (100)	12 (100)	19 (100)	23 (100)
通 塾 率 B/A		75.9	81.4	70.8	65.9	81.5	87.2	65.7	81.3	88.2	89.1	77.3	67.8	76.9	86.3	80.0	81.4	76.7	79.3	75.5	90.0	64.4	85.7	64.3	85.7	95.0	92.0
通 塾 か 所 数 別	1か所	168 (54.5)	140 (41.1)	56 (70.0)		41 (48.8)		39 (56.5)		32 (42.7)		36 (62.1)	27 (44.3)	18 (36.0)	36 (35.6)	32 (66.7)	16 (45.7)	23 (50.0)	20 (43.5)	18 (45.0)	11 (40.7)	15 (51.7)	11 (30.6)	6 (61.1)	50 (50.0)	15 (78.9)	13 (56.5)
	2か所	101 (32.8)	119 (34.9)	21 (26.3)		28 (33.3)		22 (31.9)		29 (38.7)		17 (29.3)	27 (44.3)	23 (46.0)	36 (35.6)	13 (27.1)	13 (37.1)	18 (39.1)	12 (26.1)	14 (35.0)	10 (37.0)	9 (31.0)	11 (30.6)	5 (27.8)	3 (25.0)	2 (10.5)	7 (30.4)
	3か所	30 (9.7)	59 (17.3)	1 (1.2)		13 (15.5)		7 (10.1)		9 (12.0)		5 (8.6)	6 (9.8)	6 (12.0)	22 (21.8)	2 (4.2)	2 (5.7)	3 (6.5)	12 (26.1)	5 (12.5)	5 (18.5)	5 (17.2)	8 (22.2)	2 (11.1)	2 (16.7)	2 (10.5)	2 (8.7)
	4か所	4 (1.3)	16 (4.7)	2 (2.5)		1 (1.2)		1 (1.4)		—		—	1 (1.6)	—	4 (4.0)	1 (2.1)	4 (11.4)	1 (2.2)	1 (2.2)	2 (5.0)	—	—	4 (11.0)	—	1 (8.3)	—	1 (4.3)
	5か所	5 (1.6)	5 (1.5)	—		1 (1.2)		—		4 (5.3)		—	—	3 (6.0)	2 (2.0)	—	—	1 (2.2)	—	1 (2.5)	1 (3.7)	—	2 (5.6)	—	—	—	—
	6か所	—	2 (0.6)	—		—		—	—	—	2		—	—	—	1 (1.0)	—	—	—	1 (2.2)	—	—	—	—	—	—	—
通 塾 数 計 (C)		512	655	119	98	143	142	108	178	142	237	95	103	101	206	68	64	77	89	72	51	47	83	27	22	25	37
1人当たり数 C/B		1.66	1.92	1.49	1.63	1.70	1.89	1.57	1.78	1.89	2.23	1.63	1.68	2.02	2.04	1.41	1.83	1.67	1.93	1.80	1.89	1.62	2.31	1.50	1.83	1.32	1.61



表21 通塾先の種類別動向 - 学年・性別 (複数回答)

上段は実人数、下段は比率：％

		通塾者総数		3 年 生				6 年 生			
				男 子		女 子		男 子		女 子	
調 査 年 度		'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91
サンプル数		308	341	80	60	84	75	69	100	75	106
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
種 別 の 塾	習 字	145	118	43	20	42	35	31	23	29	40
		47.0	34.6	53.8	33.3	50.0	46.7	44.9	23.0	38.7	37.7
	ピ ア ノ	106	124	7	6	57	57	4	5	38	56
		34.4	36.4	8.7	10.0	67.8	76.0	5.8	5.0	50.7	52.8
	そろばん	72	32	16	8	14	4	14	7	28	13
		23.4	9.4	20.0	13.3	16.7	5.3	20.3	7.0	37.3	12.3
	算 数	38	67	13	3	2	9	9	24	14	31
		12.3	19.6	16.2	5.0	1.9	12.0	13.0	24.0	18.7	29.2
	水 泳	37	56	18	26	14	14	3	10	2	6
		12.0	16.4	22.5	43.3	16.7	18.7	4.3	10.0	2.3	5.7
	剣 道	28	22	6	2	4	5	16	11	2	4
		9.1	6.5	7.5	3.3	4.8	6.7	23.2	11.0	2.3	3.8
	野 球	26	57	9	15	—	—	17	41	—	1
		8.4	16.7	11.3	25.0	—	—	24.6	41.0	—	0.9
	英 語	19	105	2	5	2	7	4	42	11	51
		6.2	30.8	2.5	8.3	2.4	9.3	5.8	42.0	14.7	48.1
	国 語	6	31	—	5	—	7	1	9	5	10
		1.9	9.1	—	8.3	—	9.3	1.4	9.0	6.7	9.4
	そ の 他	35	43	5	8	8	4	9	6	13	25
		11.4	12.6	6.3	13.3	9.5	5.3	13.0	6.0	17.3	23.6

表22 通塾動機 (複数回答)

比率：％、( )内実数

調 査 年 度	合 計		3 年 生		6 年 生	
	'83	'91	'83	'91	'83	'91
サンプル数	(308)	(341)	(164)	(135)	(144)	(206)
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
父母に言われて	26.9	34.6	29.2	30.3	24.3	37.4
先生にすすめられ	—	1.2	—	1.5	—	1.0
友だちがいくから	9.4	15.2	7.3	11.9	11.8	17.5
自分から行きたい	67.2	71.3	68.3	78.5	65.9	66.5

以上でみてきたように、この間において塩田地区小学生の放課後の通塾状況はかなりの変動を遂げているようである。

さらに表22で通塾の動機についてみておこう。およそこの間、各項目で回答者の割合が増えている。しかし「自分からすすんで」は4ポイント増であるが、「父母にすすめられて」が8ポイント、「友達がゆくから」も6ポイント増加、全体的に自発的な通塾動機よりも他律的な動機から塾に通い始めるものが増えている。

## 6. 家族・近隣者との触れ合い状況と

### 日曜日の過ごし方

6-1) おうちのひととつぎのようなことがありますか？

子ども達は家庭内で家族の構成メンバーと日頃、どの程度触れ合っているのだろうか。父、母、兄姉、弟妹、祖父母の別に、それぞれ身近な事柄について「よくある」「時々ある」「ほとんど無い」の3段階で答えてもらった。

表23-1で「お父さんと遊んだり、話をする」の全体的な回答状況をみておくと、家庭内で父親との触れ合い・交流の機会が「よくある」とするものは回答者全体の約4割、この間に3ポイント減である。「時々ある」も4割台で推移、「ほとんどない」は1割台で微増している。学年別には、3年生で「よくある」が激減、その分が「時々ある」へ移行している。6年生では「よくある」が微増、「ほとんどない」も微増し「時々」を減らしている。性別には、「よくある」は男子が大きく減り、女子は増えている。「ない」では男子は変化しないが女子はこちらも増えて二極分解の徴候を見せている。概して今回、3年男子の「父親離れ」が目立っている。

表23-2に移り、「お母さんと遊んだり、話をする」の回答状況をみてゆこう。子どもたちが家庭で母親との触れ合いが「よくある」と答えたものは全体の5割台である。この間に3ポイント減、その分1割台の「ほとんどない」を増やし、「時々」は3割台で推移している。学年別には3年生は「よくある」を減らして「時々」を増やし、6年生では「ない」を大きく増やしている。性別では、男子が「よくある」を大きく減らし「ない」

を増やしており、特に「母親離れ」が目立っている。女子は「時々」を減らし「ある」と「ない」が微増で全体傾向とはやや異なっている。

表23-3では、年上の兄・姉との接触機会に関して「お兄さん、お姉さんに勉強をおしえてもらう」ことがよくあるかどうかについて質問し、確かめることにした。全体的な回答状況は、「よくある」がこの間に15ポイントも減少して1割台に落ち込み、その分「ほとんどない」を増やし4割に達した。学年別では、とくに3年生は「よくある」を17ポイントも減らし、6年生では「ある」を10ポイント減らし、「ない」を18ポイントも増やし「兄・姉離れ」が顕著である。性別にも同様な傾向がみられ、とくに女子の方に「兄・姉離れ」が一層顕著に認められる。

表23-4に移り、年下の弟・妹との関係に関して「弟・妹と仲良く遊ぶ」ことがよくあるかどうか、の質問に対する回答状況をみてゆこう。

全体的に「よくする」は5割台を保持しているが、この間に6ポイント減らし、「ほとんどない」が5ポイント増加し2割に達しようとしている。学年別には3年生が「よくする」を8ポイント増やしている点が目新しく、6年生は15ポイントも減らし3割台へ落ち込み「弟・妹離れ」が一段と進んでいる。また性別では男子の「弟・妹離れ」が顕著だが、女子は殆ど変わらない。

最後に、祖父・祖母との触れ合い状態に関して「昔の話を聞く」ことがよくあるかどうか、で質問した。その回答状況は表23-5に示しておいたが、「よくある」がこの間に10ポイント減らして1割台へ、一方の「ほとんどない」は18ポイントも増やし、5割に達しようとしている。学年、性別には、軒並み「祖父・祖母離れ」的な数字がみてとれる。特に3年生よりも6年生が著しく、年長になるに伴いこうした傾向が増加してゆくようである。

なお、一概に「祖父・祖母離れ」と決めつけることは適当ではなく、「昔の話を聞く」との設問自体がもつ限界性も検討されねばならないだろう。つまり「昔の話」を今日の子ども世代にどう語り伝えるかは興味・価値感の隔たりが大きく、祖父・祖母世代も消極的に避けており、その他の話題や方法で触れ合いの時を過ごして居ることも確か

表23 おうちの人とつぎのようなことがありますか？（各表とも「いない」「NA」を除いて集計・作成）

## 1) お父さんと遊んだり話をする

## 2) お母さんと遊んだり話をする

比率：％、( )内は実数

	総 数		3 年		6 年		男 子		女 子		総 数		3 年		6 年		男 子		女 子	
調査年度	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91
サンプル数	(371)	(398)	(192)	(169)	(179)	(229)	(203)	(201)	(168)	(197)	(380)	(414)	(196)	(175)	(184)	(239)	(204)	(211)	(176)	(203)
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
よくある	42.6	39.6	43.2	33.7	41.9	44.1	45.8	37.8	38.7	41.6	59.5	55.8	56.6	52.6	62.5	58.2	54.9	46.0	64.8	66.0
時々ある	43.1	43.7	39.1	47.9	47.5	40.6	40.4	48.3	46.4	39.1	30.3	30.7	30.1	33.1	30.4	28.9	32.4	36.5	27.8	24.6
ほとんど無い	14.3	16.6	17.7	18.3	10.6	15.3	13.8	13.9	14.9	19.3	10.3	13.5	13.3	14.2	7.1	13.0	12.7	17.5	7.4	9.4

## 3) お兄さんお姉さんに勉強をおしえてもらう

## 4) 弟や妹と仲よく遊ぶ

	総 数		3 年		6 年		男 子		女 子		総 数		3 年		6 年		男 子		女 子	
調査年度	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91
サンプル数	(228)	(274)	(123)	(108)	(105)	(166)	(126)	(142)	(102)	(132)	(232)	(222)	(115)	(105)	(125)	(117)	(121)	(107)	(111)	(115)
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
よくある	29.4	15.3	32.5	14.8	25.7	15.7	25.4	12.8	34.3	15.2	56.9	50.9	55.6	63.8	54.4	39.3	58.6	44.8	55.0	56.5
時々ある	43.9	44.5	39.0	49.1	49.5	41.6	46.0	35.5	41.2	46.2	28.8	29.7	28.7	19.0	27.2	39.3	26.4	31.8	31.5	27.8
ほとんど無い	26.7	40.1	28.5	36.1	24.8	42.8	28.6	34.3	24.5	38.6	14.3	19.4	15.7	17.1	18.4	21.4	15.0	23.4	13.5	15.7

## 5) おじいさんおばあさんから昔の話を聞く

	総 数		3 年		6 年		男 子		女 子	
調査年度	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91
サンプル数	(293)	(340)	(156)	(135)	(137)	(205)	(156)	(164)	(137)	(176)
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
よくある	27.0	17.0	32.7	19.2	18.2	15.6	22.4	17.1	32.1	17.0
時々ある	42.0	33.5	40.4	37.8	46.0	30.7	41.7	31.1	42.3	35.8
ほとんど無い	31.0	49.4	26.9	43.0	35.8	53.7	35.9	51.8	25.6	47.2

表24 近隣者との触れ合い状況(複数回答)

比率: %、( )内は実数

調 査 年 度	総 数	中 塩 田						東 塩 田						西 塩 田						別 所					
		3 年		6 年		3 年		6 年		3 年		6 年		3 年		6 年		3 年		3 年		6 年		3 年	
		'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91
サ ン プ ル 数	(406) 100.0	(419) 100.0	(90) 100.0	(65) 100.0	(117) 100.0	(60) 100.0	(43) 100.0	(60) 100.0	(58) 100.0	(53) 100.0	(30) 100.0	(45) 100.0	(40) 100.0	(28) 100.0	(14) 100.0	(29) 100.0	(25) 100.0	(28) 100.0	(14) 100.0	(28) 100.0	(14) 100.0	(29) 100.0	(25) 100.0	(28) 100.0	(14) 100.0
悪戯を注意・叱つた りする人がいる	54.7	50.1	61.3	48.9	55.4	48.7	48.3	41.9	68.3	48.3	56.7	68.9	45.2	50.0	85.7	45.0	60.0	50.0	85.7	45.0	60.0	50.0	85.7	45.0	60.0
一緒に遊び、遊び方 を教えてくれる人	41.6	33.9	45.3	36.7	26.1	27.4	58.3	51.2	28.3	31.0	46.7	46.7	21.4	32.1	50.0	30.0	28.0	32.1	50.0	30.0	28.0	32.1	50.0	30.0	28.0
何でも気楽に話がで きる人がいる	58.1	64.4	57.3	64.4	66.1	57.3	56.7	60.5	55.0	72.4	52.8	53.3	71.4	60.7	85.7	65.0	76.0	60.7	85.7	65.0	76.0	60.7	85.7	65.0	76.0

であろう。したがって「祖父・祖母離れ」と決めつけることは適当ではなく、「昔の話を聞く」にかぎり、この間、顕著に減少しているということである。ただ本調査では前回との比較、この間の推移を見届けることを課題にしており、前回と同じ設問をしておいた。今日の状況下で祖父・祖母世代との触れ合い状態を端的に把握するには、どのような質問文あるいは方法が適当なのかについては今後の課題としたい。

#### 6-2) 子どもたちと近隣者との触れ合い状況は どのようになっているのだろうか。

本調査では「あなたの家の近所に次のような人がいますか?」と問い、「いたずらを注意したり、叱ったりする人」「いっしょに遊び、遊び方を教えてくれる人」「何でも気楽に話ができる人」の3項目を用意し「いる」「いない」で答えてもらった。

表24で回答状況をみてゆくと、「いたずらを注意、叱ったりする人がいる」と答えたものは両回とも5割台の過半数であるが、この間に5ポイント減っている。学校・学年別には、中塩田と東塩田の3・6年生、及び西塩田の6年生が減って4割台である。別所は全般的に増えている。

「いっしょに遊び、遊び方を教えてくれる人がいる」は総数で4割台から3割台へ、この間に8ポイント低下した。学校・学年別には西塩田のこの間の低下が目立ち、また、別所を除いて3年生が低下、それでもおよそ2割台の6年生に比べれば一段と高い数字が並んでいる。

「何でも気楽に話ができる人がいる」は、今回6ポイント増えて6割台に達し、およそ3人中の2人が「いる」と答えている。中塩田の6年生を除いて各校区・学年で増えている。このように気楽な会話のできる近隣者のいる者の増加は、一般に好ましいことである。但し、その相手が近隣の誰で、どのような内容の話を気楽にしているのが問題であるが、本調査ではそこまで立ち入って、確かめることはしていない。

#### 6-3) 日曜日の過ごし方

塩田地区の小学生は調査実施時期(83年度は10月、91年度は9月)において日曜日をどのように過ごしているのだろうか。その直近の日曜日(天

表25 この前の日曜日、主に何をしましたか（複数回答）

比率：％、（ ）内実数

	総 数		3 年				6 年			
			男 子		女 子		男 子		女 子	
調 査 年 度	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91
サ ン プ ル 数	(406)	(419)	(113)	(91)	(103)	(86)	(105)	(123)	(85)	(119)
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
家の中で遊んだ	19.7	31.0	26.5	36.3	24.3	23.3	18.1	32.5	18.8	31.1
庭や家の近くで	20.4	18.1	23.0	20.9	22.3	27.9	21.9	14.6	18.8	12.6
家の人と出掛けた	27.1	32.2	34.5	28.6	29.1	39.5	17.1	26.0	21.2	36.1
友達と出掛けた	6.7	13.1	6.2	13.2	5.8	10.5	8.6	18.7	5.9	9.2
一人で出掛けた	1.5	3.8	1.8	4.4	2.9	1.2	0.9	4.9	—	4.2
家の仕事を手伝った	33.7	9.8	33.6	7.7	27.2	12.8	28.6	7.3	48.2	11.8
勉強したり読書	17.2	16.2	20.3	16.5	16.5	19.8	12.4	9.8	20.0	20.2
その他（含通塾）	14.0	21.7	8.8	6.6	2.9	8.1	20.9	33.3	25.9	31.1
回答なし	3.2	0.7	6.2	2.2	1.0	—	3.8	—	1.2	0.8

候はいずれも晴天)、主に何をしましたか? と問い、表25でみられるような回答項目とその他の記入欄を用意して答えてもらった。

「家の中で遊んだ」は総数で今回、11ポイントも増えて3割台に達した。3年女子を除いて各学年男女で大幅に増えている。小学校区別には西塩田で例外的に減少している。

「庭や家の近くで遊んだ」は、全体ではこの間に微減して2割未満になった。6年の男女と東塩田で減少が目立っている。

「家の人と出かけた」は、この間に5ポイント増え3割台に上がった。中塩田と東塩田の3年生は例外的に減少したがその他では増加、とくに6年女子は大幅に増えている。

「友達と出掛けた」もやはり今回、6ポイント増えたが全体の1割余の少数である。3年・6年の男子、中塩田で大きく増えている。

「一人で出掛けた」は両回とも少数であるが、今回、6年男女で増えている。

「家の仕事を手伝った」は今回、大幅に減って3割台から1割未満に落ち込んだ。ただし、前回の時期が秋の稲刈りの真最中であったのに比べ、今回はその直前期である。こうした時期的な特殊事

情・差異を考慮に入れば、前回の3割台という数字は例外的に高く、平常時であれば多分、これ以下の今回の数値に近いものが出ていたものと思われる。

「勉強したり本を読んだり」は全体的にほぼ増減なしの1割台で推移している。3年と6年の男子で減っている。

「その他」として自由記入してもらった回答内容のうち、目立ったものを紹介しておけば、何らかの塾に行ったとするものが前回は15人、他に野球、サイクリングなどである。また今回は全体的にスポーツ関係が大部分をしめている。野球をはじめドッジボール、バレーボール、剣道、柔道などで、この中にはスポーツ教室へ通う者も含まれている。学習塾の3人を加えれば通塾者は合計13人が確認できる。この他ではサイクリング、地区の祭りや運動会、解放子ども会などが目新しい。また寝ていた、何もしていないと記入した者が5人いる。

## 7. 校外生活における注意・禁止事項（規制）の認知状況

先に塩田地区の子どもをめぐる概況のなかで、各小学校から出されている放課後や夏休みなど校

表26 やってはいけないこと（禁止行為）

自由記入、複数回答、実人数

		総 数		3 年				6 年			
				男 子		女 子		男 子		女 子	
調 査 年 度		'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91
回 答 状 況	サ ン プ ル 数	406	419	113	91	103	86	105	123	85	119
	無 記 入 者 数	31	56	9	18	9	17	11	10	2	11
	記 入 者 数	375	363	104	73	94	69	94	113	83	108
	合 計 回 答 数	530	429	141	76	145	76	125	144	119	133
禁 止 行 為 の 種 類 別	火 遊 び・放 火	62	116	16	15	19	13	9	44	18	44
	窃 盗・万 引	129	82	37	5	41	3	26	40	25	34
	いじめ・悪口等	39	21	8	5	14	7	12	5	5	4
	投 石	50	17	10	10	9	2	18	5	13	—
	自転車の禁止行為	27	18	11	4	8	2	5	5	3	7
	B B弾打ち合い	—	25	—	1	—	6	—	12	—	6
	買 い 食 い	29	—	7	—	7	—	6	—	9	—
	無 駄 遣 い	20	2	8	—	6	2	2	—	4	—
	屋内の禁止行為	9	21	3	10	3	9	2	2	1	—
	け ん か	7	14	2	6	2	6	2	2	1	—
	そ の 他	158	113	39	20	36	26	43	29	40	38

外生活の“きまり”についての概略を紹介しておいた。そこで子ども自身は、この学校からの規制とふだん家庭で申し渡されている注意・禁止事項に関して、それぞれがどのような事柄を注意・禁止事項として受け止めているのであろうか。

本調査では、あなたが普段家のひとや学校の先生から「やってはいけない」「行ってはいけない」と言われていることは何ですか？ と質問し、自由記入してもらった。

その結果について、まず表26には「やってはいけない」禁止行為に関して種類別に実人数で示してある。

回答状況からみてゆくと、前回に比べて今回は回答記入者・比率が92.4%から86.6%へ、記入回答数も530から429へ大きく減っている。学年・性別には特に3年男・女が記入者・記入数とも今回、大幅に減少し無記入者が増えている。

種類別にみてゆくと、前回の「やってはいけな

い」行為の第1位は「窃盗・万引き」で合計129人、回答者全体の3人に1人が記入、とくに3年生男・女計78人の多数記入となっている。今回はこれが第2位で、とくに3年生は計8人に激減しており、6年生の方は逆に高く、合計74人が記入している。

「放火・火遊び」は今回第1位で合計116人、6年男女の多数が記入している。前回はこれが第2位、合計62人であり、3・6年とも女子のほうがやが多い。

「投石」は前回50人で第3位、6年男女でやや高い。今回は17人で3年男子に多い。

「いじめや悪口・嫌がること」は前回39人で第4位、3年女子と6年男子に多い。今回はいじめ問題が騒がれている割には少なく合計21人である。

「買い食い」が前回29人、第5位であったものが今回は記入者なしである。

「自転車乗りの禁止行為」としては、2人乗りや

ノーヘルメットなどであるが、前回27人、3年生中心であったが、今回は18人に減り6年生の方がより多い。

「BB弾の打ち合い」とは、市販の鉄砲玩具モデルガン的一种で、発射された弾が子どもの眼球などに命中すると失明の危険を伴うといわれている。前は記入者が無く、今回新登場。西塩田小学校の3・6年生中心の記入である。

「屋内での禁止行為」とは、廊下や階段で走ったり、遊んではいけない等の類である。今回、3年男女が増えてる。

「無駄づかい」は前回、3年生中心に挙げられていたが今回は「買い食い」同様、消え入るばかり。この間に小学生をめぐる消費行動、金銭感覚はかなりの態度変容が認められる。大人のそれが消費抑止型から多消費型へ移行していることの反映であろうか。

「けんか」はこの間に倍増している。

「その他」に含まれている少数者の記入内容のう

ち、いくつかを紹介しておくと、前回では、釣りをはじめ、水泳、夜遊び、知らない人に付いてゆかない、ローラースケート、キックボクシングなど。今回は殺人、自殺、ゲートボール場で遊んではいけない、ファミコン等で長時間遊んではいけない、勝手に塾を休んではいけない等である。

表27に移り、「行ってはいけないところ」立ち入り禁止箇所について見てゆこう。

回答状況をみると、全体の記入者比率は94.3%から82.6%へ、合計記入者数は625から424へとこの間、大幅に減少している。また各学年の男女とも今回の方が一段と減少していることがわかるが、このことから直ちに塩田地区における子ども達の立ち入り禁止区域・箇所が減っている、と結論づけるわけにはゆかないだろう。

これまでみてきたように、放課後や日曜日子ども達は自宅や友の家の屋内中心、あるいは塾通いに追われているため、行動範囲は狭く限られている。屋外で過ごすことが減り、その遊びも球技

表27 行ってはいけないところ（立入禁止）

自由記入、複数回答、実人数

調 査 年 度		総 数		3 年				6 年			
				男 子		女 子		男 子		女 子	
		'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91	'83	'91
回 答 状 況	サ ン プ ル 数	406	419	113	91	103	86	105	123	85	119
	無 記 入 者 数	23	73	5	18	2	16	9	24	7	15
	記 入 者 数	383	346	108	73	101	70	96	99	78	104
	合 計 記 入 数	625	424	162	88	150	95	162	118	151	123
立 入 禁 止 の 種 類 別	学 区 外	136	180	31	12	28	30	41	67	36	71
	溜 め 池 ・ 水 槽	146	70	47	21	37	19	32	17	30	13
	川	78	56	28	20	18	15	20	10	12	11
	工 事 現 場 等	13	46	4	15	5	9	2	15	2	7
	※上 田 市 街	14	11	—	1	2	1	9	3	3	6
	※ス ー パ ー 等	29	5	1	3	7	2	8	—	13	—
	ゲ ー ム セ ン タ ー	31	13	4	3	3	2	11	4	13	4
	危 険 道 ・ 県 道	8	24	4	8	3	13	—	—	1	3
	留守宅・知らない人の家	17	13	4	3	2	2	4	2	7	6
	そ の 他	153	6	39	2	45	2	35	—	34	2

注) ※印の場所に子どもたちだけで出掛けることを禁止、大人同伴なら可。

など設定された空間で行う事が多い。その結果、立ち入り禁止的な規制の必要性が薄れ、子どもの認知・記入が減っているのであろう。

種類別にみてゆくと、前回第1位の「溜め池、防火水槽」は合計146人、全学年男女で多く記入されていたが、今回は合計70人で半減している。

「学区外」は今回が前回は大きく上回り、合計180人が記入、特に6年男女とも多数が記入している。これの今回は合計で136、各学年で平均的に記入している。

「川」を立ち入り禁止区域にあげるものは両回とも第3位で、今回の方が記入者数は減っているが各学年男・女に散らばっている。

「工事現場等」は今回の方が増えており、3・6年の男子に多い。

「ゲームセンター」は前は6年生を中心に31人であったが、今回は13人で大きく減っており、最近の“人気低落”の反映として注目される。

「上田市街」と「スーパー等」に子ども達だけでゆくことは、塩田の各小学校で禁止されているが、今回、これを記入したものは減っている。特に「スーパー等」の大型店舗への立ち入りに関して大きく減っている。日曜日の過ごし方で「家の人と出掛けた」の外出先は、こうしたスーパーがかなり多数を占めているのであろう。

クルマなどの「危険を伴う道路とくに県道」を記入したものは、前回よりも今回の方が増えて合計24人。各小学校で特に自転車乗りとの関連で禁止されており、記入は3年女子に多い。

「留守宅、知らない家」をあげるものは前回の方が多く、6年女子に比較的多い。

「その他」では、前回は線路、火の見やぐら、墓地、洞穴など。今回は線路、山林、井戸、駐車場などが10人未満の少数であるが記入されている。

#### IV. おわりに — 若干のまとめ

以上、塩田地区小学生の校外生活をめぐる現状と動向について、二回に分けて調査の結果を順次報告してきたが、ここでは本調査の全体を通して確かめ得た特徴的な点を要約し、今後に予定の地域課題を考察するうえでの手掛かりとしておきたい。

1) まず、小学生の校外生活の中軸をなす遊びに関して、塩田地区の小学生はどのような態度で臨み、それはまたどのような理由によるのか。

調査の結果、「仲間を誘って」積極的に遊ぶとするものは半数以下の4割台でこの間に低下傾向を辿り、逆に「誘われて気が向けば」が2割台で増えており「一人で気儘に」や「ほとんど遊ばない」が各1割台で経過している。

このような遊び態度を導いている理由・遊び意識に関する設問への回答結果からは、好きな遊びのできる「場所」と「時間」の不足を各4割台で挙げている。その一方で「家に帰ってから遊びたいとは思わない」が2割台に達し、「一人であそんでいたほうが楽しい」とする回答も増えている。

つまり、塩田の小学生においても放課後、仲間と誘い合って思う存分に遊び惚ける、といった子ども像からはかなり隔たった“遊び離れ”的な小学生が相当数存在し、特に低学年（3年生）で確実に増えていることが見てとれるのである。

2) それでは日頃、塩田の小学生はどのような遊びを、どこで、誰と遊んでいるのだろうか。

遊び場からみてゆくと、自分の家の中と庭を挙げるとものが圧倒的多数、校庭に続いて友の家と庭も高い。全体にこの間、自宅中心の屋内遊びへの傾斜が顕著である。屋外遊びの場として昔から利用されてきた空き地や道路、塩田地区に多い神社や寺などは1割前後で、遊園地はほとんど無視されている。

したがって日頃良くする遊びとしては屋内遊びが中心となるが、その第1位は圧倒的な人気でファミコン・テレビゲームがあげられている。これを全くやらないと答えたものは1割未満で、全体の8割余が何らかのゲーム機を所有しており、毎日やるものが4割余である。

こうしたファミコン・テレビゲームに熱中の反面で遊びの種類が縮小化、創作的なものや集団的な“ごっこあそび”の類が減り、影が薄くなっている。屋外の遊びも、野球をはじめとしてボールを用いた球技が大半を占めており、自転車も根強い人気を保っている。反対に伝統的な集団遊びの代表格ともいえる鬼ごっこやかくれんぼ等は下位に下がり、消え入るばかりである。

したがってまた、遊び仲間とその人数も狭小化



の一途をたどっている。つまり同じクラスの友と兄弟姉妹が多く挙げられており、緊密で身近な家庭やクラス内に遊び仲間が小さく固まり、その外延部や異年齢集団への接近・拡大については消極的に経過しているのである。仲間の人数も同様に少人数の2～3人へ集中傾向をみせている。

以上のように日頃の遊びをめぐるのは、塩田の小学生においても不活発化、衰弱化の傾向を色濃くみせているのである。

3) ところで塩田の小学生は日頃、どのような遊び場・施設が身近な地域にあったら良いと希望しているのか。

子ども達の遊びをハード面で保障する場や施設にかんする要望としては、「いろいろな遊びができる広場」「自由に使えるプールやスケートリンク」「自然の中で冒険出来るキャンプ場」が野球・サッカーのグラウンドや児童館、図書館を差しおいて特に高い割合で挙げられている。

つまり、子ども達は自宅内での限られた遊びや設定された場での球技の類に満足している訳ではなく、仲間と群れて自由に、思いきり活発に遊び戯れたいと欲しているようである。

4) 塩田地区の子ども会は小学生の校外活動の育成をめざして各自治会単位で組織され、PTA役員や健全育成会の成人役員が運営に当たっている。夏休みは校外生活・活動の最盛期で、地区子ども会の行事・活動も例年、活発化する時期である。「地域の教育力」のありようを実践的に把握してゆくには欠かせない調査対象である。

調査結果からは、子供たちの夏休みの行事・活動への参加状況は概して低調、下がりカーブで推移している。しかもこの夏休みの行事・活動を「自分達でやろう」ときめたものがある、とするものが6割近くから4割台へ落ち込み、子ども達の自発的な意志・活動が減退しており、子ども会行事の計画・運営上でも問題が増幅しているようである。

つまり、子ども達が「やってみたい」と希望する行事・活動と実際に行っているもの(花火大会、肝試し、西瓜割り、お楽しみ会、美化清掃など)とではかなりの程度かけ離れているのである。

およそ子ども達多数が希望するものは、各種スポーツ、手軽な娯楽性に富むゲームの類、あるいはキャンプのような日常性を越えた野外体験の種目であるが、これらの行事を子ども達の参加で計画・実施することは手間ひまがかかり、大人の役員多数からは回避されやすく、また地域性を盛り込んだ学習・体験の種目も敬遠されている。

こうした子ども会運営の現状に対して子ども達は批判的であり、「自分たちできめてやっていく」とする主体的な参加・運営を大多数が「良い」としている。このような子ども達の自発的な意志と行動力を受け止めてゆくことが肝要であり、さまなければ子ども会は一層活力を失い、その先で子ども達から見放されてしまうであろう。

このように塩田地区子ども会の活動展開においても、今日の子育て課題(とくに対人関係の不調や生活諸能力の獲得難が指摘されている)に正面から答えるものとはなり得ていないように思われる。子ども達の“子ども会離れ”がすすむなかで、地区子ども会活動のありかたを地域課題に位置づけて真剣に問い直してゆく必要があろう。

5) 今日、放課後の塾通いは広く普及し、どこにでもみられる光景になってしまった。塩田の小学生においても、何らかの塾に通っているものが8割を越え、高学年になるほど通塾率は増え、今回の最高通塾数は6年女子で週に6か所である。しかし通塾の動機をみると、この間に自発的よりも他律的な動機からが増加傾向にあり、気になるところである。

通塾先の変化としては、いわゆる“習いごと”では、これまで伝統的に高位を保持してきた習字、算盤が地盤沈下し、とくに算盤が著しい。スポーツ教室の類ではやはり剣道が退潮、野球が大きく増え、水泳も伸びている。学習塾の類では、国際化の時代背景とともに英語が急上昇しており、算数・国語も上向きカーブを描いている。

6) 子ども達が家庭内で家族のそれぞれと日常的にどの程度、触れ合っているのかについては、この間、各対象において触れ合いの度合いが落ち込んでおり、家族“離れ”的な傾向をみせている。

とくに年上の兄・姉及び祖父・祖母世代との触れ

合い関係が落ち込み、希薄になっていることが確かめられた。また隣り近所の人々との触れ合い状況をみても、半数前後が「いる」としているが、傾向的には低下している。

こうしたなかで子ども達は学校が休みの日曜日をどのように過ごしているのだろうか。平日の放課後と同様に家の中・庭や近所で遊んだとするものが約半数、また日曜日を当てこんで家の人と、あるいは友達と外出したものは半数近い。家の手伝いは、稲刈り期には3割を越えるが、通常は1割である。勉強や読書は2割未満である。なお日曜日にも各種スポーツの練習や塾通いとなるものが相当数みられる。またこの日曜日に子ども会や子ども達も参加できる行事が行われた地区は僅少である。

週休2日（学校5日制）が本格化するとき、地域で子ども達に充実した校外生活をどのような内容で保障してゆくか、こうした実態をふまえて検討する必要があるだろう。

7) 子ども達は日常生活をするうえで、大人の側からの種々の規制（禁止行為・立ち入り禁止）

に対して特に何を肝に銘じて受け止めているのであろうか。

本調査では、その必要性を理解・認知するかぎりでは自己記入となる方式を採用した。そして、今回の結果から特徴的な点として、これの記入者・記入数とも大きく減っていることがあげられる。このことをどのように受け止めてゆくか。単純に結論は出せないように思われる。何故なら、今日、子ども達の校外生活の場は屋内中心、限られた空間で大過無く過ごすことが多く、その意味では禁止・規制の必要度は減退しているであろう。しかしこのような校外生活のありようを是認するわけにはいかないとすれば、あらためて子ども達の校外生活活動の活発化とそれに伴う環境・条件等の整備・保障をそれぞれの地域で行ってゆく必要があるだろう。その際には、先にみておいた子ども達が地区内に欲しいと思う施設や希望する子ども会行事等の調査結果を参考にして、入念な検討を要するように思われる。

（さくらだ ゆりこ 教授）

（1993. 4. 1 受理）